

## 福島の有機農業者の現状を聞く

全有協では去る6月18日、平成23年度総会と合わせて「福島県の有機農業者の現状を聞く集会」を開催しました。福島から4人の生産者をお招きし、支援活動する団体の報告も交え、今起こっている事に参加者が共に向き合う一日となりました。当日の動画は全有協のウェブサイト(<http://zenyukyo.or.jp>)で紹介しています。今回の通信ではその一部を抜粋してお伝えしたいと思います。

### 【発表者】

- 福島有機農業ネットワーク 長谷川浩さん、安川昭雄さん、根本洗一さん、菅野正寿さん
  - やまろく米出荷協議会 岩井清さん
  - 支援活動 パルシステム生活協同組合連合会、大地を守る会、IFOAM JAPAN
- <司会> 大和田世志人 (全国有機農業推進協議会 副理事長)



●福島市・長谷川浩さん

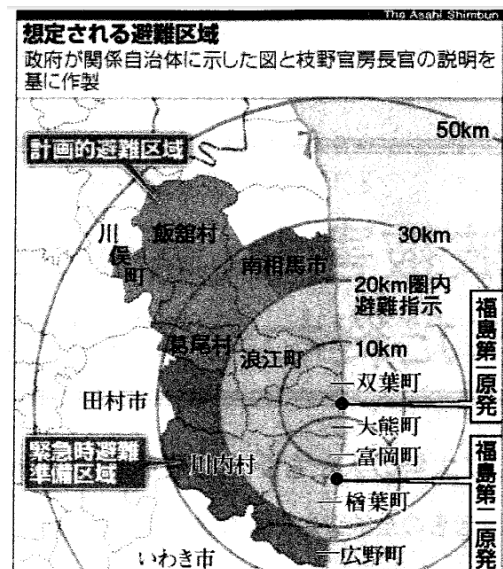
### 刻一刻と進む汚染

福島有機農業ネットワークと日本有機農業学会の事務局長をしている。震災の起こった3月11日以来、避難という意味では、一度も福島を出ずに活動が続いている。GWには学会として現地調査を行い、レポート「津波被害も原発被害もまだ終わっていない」を作成した。チェルノブイリ事故によるヨーロッパ土壤汚染地図の立ち入り禁止区域の広さは、非常に悲惨な状況を物語っている。1000キロ離れたスイス、2000キロ離れたイギリスのウェールズでも汚染が出た。25年前、大爆発が起こり、欧州中が汚染された。飯舘村、浪江町、川俣町など計画的避難区域ではチェルノブイリと同じく有無を言わず避難をさせられている。

他の場所でもホットスポットがいたるところで見つかるので、一軒一軒の放射線量を調査して、行政と住民が相談しながら避難を決めている状態。汚染がひどいのは福島県だが、チェルノブイリ同様、実際には偏

西風に乗って太平洋および北半球全体が汚染された。世界中が汚染されている。福島県の人々は被ばくしながら作業をしているのが実態。福島県に住む人間として、チェルノブイリと並んで世界的に有名になってしまった事は残念。

一番深刻な汚染があった飯舘村、浪江町は里山地帯。おおざっぱにいうと8割が里山、2割が水田や畑、宅地。大陸の真ん中にあるチェルノブイリとは全然違う。里山は高い所にあり、深刻な水系汚染が始まっている。雪を採取して東京の検査機関に出したところ、2種のセシウムを合わせて最大で6000ベクレルを超える値が見つかった。雪は溶け出している。宮城県の県境では、10000ベクレルを超える数字が検出される川泥が見つかっている。刻一刻と汚染が進んでいる。



## 何よりも子どもたちを守る

「子どもたちを放射能から守る福島ネットワーク」について強調したい。文科省は最初に「子どもたちが年間 20 ミリシーベルトを浴びても問題なし」と言った。それに対して福島のお母さんたちが激怒した。子供たちは細胞分裂が活発であり、大人より放射能に対して 4~5 倍も感受性が高いと言われている。放射線は DNA だけでなく細胞も傷つけるので、いろいろな健康障害が起こるというチェルノブイリの研究者もいる。そういう考えに立てば、今、福島市の学校がある場所とは「放射線管理区域」であり、「すぐ目の前で X 線を図っているような場所」にいるという事。「そんなところに子どもたちを住ませるなどとはとんでもない」と、本来法律上で定められていた「1 ミリシーベルト」に撤回させる事を目指しているが、非常に大変な状況。放射線は消えないので、当然ごみを燃やせば濃くなりえる。捨て場にも困っている。除染作業では大なり小なり誰かが被ばくしている。

## データ把握を自らの手で

槍も鉄砲も、ましてやミサイルも飛んではいない。しかし、実際には放射線がいっぱい飛んでいる事を考えると「福島県は非常事態、戦時体制にある」という状況だと私は認識している。電気をじゃぶじゃぶ使ってきたせいで、福島県も、青森県も、地方には「核のごみ」が行き場がないほどたまっている。結局のところ、「国や東電が悪い」という事は出来るが、電力を使ってきた我々にも責任がないとは言えない。責任がないのは小さな子どもとこれから生まれてくる子どもだけだと思う。言うまでもない事だが、日本国中に原発はある。北朝鮮にも、韓国にも、中国にも、台湾にもある。もし、第二のフクシマのような事があった時には、逃げ場所がないような絶望的な状態である事を確認したい。

外部被ばく、内部被ばくを含め、私たちや子供たちがどれほど被ばくしてしまったのか、データを見て適切な判断をしたくとも、適切なデータがない。分からない事にはおびえるしかない。農地については少しずつ調査が始まったが、全然足りていない。里山、水系、海のデータも全然足りない。生活に関わる所、公園や排水溝など、誰かが調べてくれるのを待つてははられ

ない。ガイガーカウンターを買って自分で調べなければならない。農業については、とにかく情報交換をして、現状を把握する所から。福島県内に 7 万人の原発被災者がいるので、やる事はたくさんある。そのためにはネットワークや組織体制を強化し、助成金も活かしてやれる事をやっていくしかない。

## 問題の本質は何か

東京の人は反発をされるかもしれないが、問題の本質は「地方に水も食べ物もエネルギーも依存している」という事。その一方で、今回の放射能のリスクも、核のごみも、全部地方にある。もう一度それを皆が考えなおすという事。別な言い方をすれば、「たかが電気」のために、かけがえのない大地が汚されてしまい、50 年もの長年にもわたって積み上げてきた人生を、一日で木っ端みじんにされた人が、たくさんいる。それは「電気病」であり「文明病」。他にも色々な言い方はあるかもしれないが、それを抜本的に見直さなかったら、この人たちは死んでも死にきれないと思う。

## 何ができるか

ひとつは、買い支えてほしいという事。放射線については情報が出ているので判断があるにしても。福島有機農業ネットワークでは寄付も呼びかけている。さらにもっと支援したい人は、ぜひ福島に来ていただきたい。子どもたちのために毎週東京から福島に来て支援しているスーパーウーマンみたいな人がいる。その人が一人でオーガナイズして、子どもたちを健康診断に連れて行っている。山梨からは「自分たちで分析能力を持たなかったら、とても待ってられない。データも隠される」と、高い測定機器と安い簡便な機器を背負って福島に来てセットアップをしている人もいる。ぜひ福島に来て、ご協力いただきたい。しかしながら、現場を見ずに東京のほうから「ああしろ、こうしろ」という事は慎んでいただきたいと思う。



## ●南相馬市 根本洗一さん



### 反対し続けた原発建設

20km警戒地区圏内となった南相馬市で、有機と特別栽培で米や大豆を作っていた。百姓を始めたのは小学校を出た昭和30年から。13人の大家族の長男。農学校で勉強して、戦争から帰った父に代わりすぐ経営を任された。お金がない中、高校では野菜を持って行って売っていた。いかに儲けるかを考え、頑張ってきた。数年前、東北の農業を変えようという550人が集まった集会があった。福島県は都市に近いという関係もあり、有機農業者もいっぱいいたが、地域へのひろがりとか、消費者に対する答えがなかった。そこで2年前に自然発生的に、福島県で共通したネットワークがつくられた。つくる人も、買ってくれる人もいっぱいいる。多くの人や会員にも支えられ、2年間が終わった。

どんな時も「相馬はいいよ」と宣伝していた。ところが3月11日を境にして、「世界で一番悪いところだ」というしかない」となった。これは私たちの努力の結果ではなくて、させられた事で、死んでも死にきれん、と思う。安心安全を求めるわれわれとしては、「原発というのは一番おっかないもの」と、作る前から学習会もしていた。作る側は安心・安全という。しかし「もし何かあったらどうしようもないもの」とわかっていった。40年前、農協の総会で600戸ほどの農家が反対をした。その時わたしは理事をした。原発に反対している農家さんはたくさんいた。署名運動をやった。その時、何人かに「おっかないけど地域の経済には役立つ」「あんたの子供就職、大丈夫？」などと言われた。私は子供たちに「うちは親の七光で就職はできない。だからあんたがたが勉強しなさい。勉強してちゃんと社会に役立つ人間になれば、どこでも食っていけるから」と伝えた。

### 政治に届かない現場の声

米作りや養蚕を一生懸命やってきた中で始めた有機

農業。それぞれの土地によって条件があり、こうすればこうなる、という事が身につくもの。今年はネットワークの代表も終わって時間ができ、何でもできる気であった。年が74だから「あと10年はやる」という考えでいた。認証された畑で地域の人たちとつながって、資材の確保も段取りして4月の作付けを待っていた。ところが3月11日。今までのやり方も、人生も、めっちゃめっちゃになった。

今は相馬に避難している。嫁さんが一番心配しているのは子どもたちがどうなるか。「安全である」と言って周辺の人たちを黙らせて、何もハッキリと言わせない。その結果がこうなのに。とにかく発信していく事が必要だと思う。言いたくはないが政治家にはやる気があるのか。ガッカリしている。「あんたは何をやっているの？現場に来てみなさい。喧嘩なんかしてる場合じゃないでしょう」と言いたい。



## ●南相馬市原町区 安川照夫さん

### 大和魂を発揮して、清き流れを守る

南相馬市原町区で農家として昭和45年から米を作ってきた。陸軍特攻隊の訓練場があった場所を開墾した清い水が流れる地域で肥料を中心とした研究をしている。有機農業推進法の流れの中、せっかく苦勞して何とかしようとしていたところで原発事故による作付け制限が通達された。私は牛を飼っているから稲わらがないと困るので、作付けをした。

私の米を食べてくれる人は「この米は絶対間違いがない」と買ってくれる。有機は高いといわれるが、いいものを食べたほうが、結局は安い。いいものを食べないで育った都会の子どもは病気にも負ける。見に来てくれば、都会の人も「ああそうか」となる。日本国憲法では人が最優先。第一条はひと。生きるために憲法ができています。大和魂を発揮して、もっと人々に信頼がなければ、人々が一致団結しなければいけない。



## 自分たちで測らなければ

3月25日に県の方から「耕作・種まき不可」という指示が来た。3月下旬、じゃがいももまきたい、田んぼの準備も始めたいという時に、外にも出られなくなった。ガソリンもない、物資もない。避難者はいる。みんな不安で、まさに「沈黙の春」という状況だった。2回の土壌検査の結果、4月12日、飯舘村や浪江町などの計画避難区域も含めた一部地域以外は、耕作してもいいと指示が出た。その基準が、田んぼで5000ベクレル以下。米に移行するのが10%以下なので500ベクレル以下になるから、という理由。しかし私の田んぼから10kmも離れていない所から、4000ベクレル以上の数字が出るなど、同じ地域でも1000から4000と、非常にばらつきがあるという県の検査結果が出た。それでも、耕せるだけでいい。津波にあった人とか、飯舘村の人の事を思えば、その人の分まで頑張るって作ろうじゃないかと、何回も生産者会議を開いたり、道の駅の集まりをやったりして、「前を向いて作付けをしよう」と決めた。

ただ、自分の田んぼや畑がどういう状況なのか、全くわからない。たまたま娘がブログに書いたら、琉球大学の方から土を送ってくれと連絡をいただき、送った。私の田んぼでキログラムあたり452ベクレル。「ああ、低くて安心したな」と思ったら、そこからたった400m離れた畑から4518ベクレルと、10倍も違う数字が出て驚いた。高い数字が出た土は、畑に草があって、その草の周りの土だった。飯舘村の方を向いている地形だった事も関係しているかもしれない。「これはきっちり実態を計らないといけない」と痛感した。田んぼ、畑、落ち葉を集める里山、汚染の実態がどういう状況なのか、全くつかめない。ずっとそういう不安が続いている。県にはまだ一台も、土壌検査も食品検査もできる機械がない。郡山にある県の総合農業センターにやっと設置が始まったという状況。千葉県の実験センターに毎週毎週、農産物を送って検査をしているというのが実態。



### ●二本松市 菅野正寿さん

#### 田畑を失った人の分も頑張るって作る

福島県二本松市（旧東和町）で、2.5ヘクタールのコシヒカリともち米と黒米、14アールの「桃太郎」ハウストマト、1ヘクタールの青豆、黒豆、大豆を作っている。養蚕小屋を改造して冬場のもち加工用にし、豆餅やよもぎ餅、おこわ弁当も作っている。金子美登さんとは農業大学の10年後輩。私の所は計画避難となった飯舘村から30分の地域。川俣町との境に1000m級の山があり、それが盾になった。ほんの少し風が変わっていたら今頃は計画避難区域だった。津波で農地も家も流されてしまった人たちと比べれば、まだ、田んぼ・畑ができる。そういう人たちの分まで頑張るって作らなければならぬと、今、そういう思いでいる。

原発から50km圏内の二本松は今、どういう状態か。二本松市の年間線量推定値は9.9ミリシーベルト。20ミリシーベルトの外部被ばくの半分になるだろうという状況。当然、子供の1ミリシーベルトの基準でいけば避難すべき。私の住んでいる場所でも9.3。ただ同じ二本松市でも1.8から9.9まで幅がある。同じ地域でも非常に差がある。3月中は浪江町から二本松市に3000人の避難者が一斉にやってきた。7000人の旧東和町に1500人の避難者がいっぺんにきたものだから大変だった。3月いっぱい10か所1000人以上の避難所で、放射能の事よりも避難してきた人の支援で追われた。ガソリンもなくなる、物資もなくなるという状況で、二日に一度は朝、2時間スタンドに並んで支援を続けた。

## 里山再生と放射能汚染

7年前、市町村合併を前に、旧東和町の仲間たちで、有機農業による、有機的な関係を、勇気を持って取り組もう、という事で、ひらがなで「ゆうき」とつけた「ゆうきの里・東和」というNPOを作った。会員は250名。地域の農家1500軒のうち6軒に1軒くらいが、このNPOに何らかの形で参画してもらって地域づくりに取り組んできた。福島県は耕作放棄地が、面積としては一番多い。特に桑畑、葉たばこの面積が多くて、福島県で二万ヘクタール。これは埼玉県の面積と同じ。全国では四十万ヘクタール、荒れている田んぼや畑がある。荒れた桑畑を何とかしたい、もう一度桑畑に輝きを取り戻したい、という事で、10年前から健康食品としての桑の葉・桑の実の栽培に取り組んできた。年間に桑の葉を40t以上、桑の実を2t以上収穫し、特産品づくりをやって、里山を再生してきた。一生懸命再生してきた時に起こった放射能事故で、悔しくてならない。

### 深刻化する汚染、学校給食の自粛も

無添加食品協同販売組合に検査に出したところ、生の桑の葉からは72ベクレルという数字だった。今年も桑のお茶を作りたいと思い、来週にも荒茶（工場の製茶段階のもの）の検査をする。そもそも土壌検査、食品検査の機械が足りない。京都の会社が、4月に何か支援をと言ってくださった時に、「とにかく実態がわからないので線量計が欲しいです」と言ったところ、2台、持ってきてくださった。これで予備的に、田んぼはどうか、里山や芝はどうか、やっと調べが始まった。早急に、世界から、土壌検査と食品検査の機械を集めてほしい。

福島県では、地元の小学校では全部、校庭の土をはいで、表土を埋めてシートをかけている。やっと作業が終わったが、今度は内部被ばくの問題があり、非常に騒がれている。私たちは学校給食にも10年以上納めてきたが、先日学校給食は自粛してくれと言われた。保護者から「いかななものか」と問い合わせがあれば協議会としては考慮しないわけにいかない。学校給食も自粛になった。福島県の農産物の行き場がない。地産池消もなくなってしまう。学校給食の問題も含め、子どもたちの問題はこれから深刻だと思っている。



### 自分の畑で検証するしかない

国も東電も基準値があいまいで、科学者もみんなバラバラ。どこが基準値なのか分からない。しかも今どういうレベルの汚染があるのか。空気中も、土壌も、河川も分からない。見えない放射能の実態に右往左往しているのが、福島県の実情。我々は今朝も4時に起きてトマトの定植をしてきた。現場でどうしていきべきか、自分で対応するしかない。そういう中で金子さん、日本有機農業学会の中島先生、新潟大学の野中先生などに来てもらった。野中先生は「有機質のしっかり入った、腐食のある、地力の高い所は土壌汚染が低いであろう。これはチェルノブイリのデータからも言える。ゼオライトとか鉱物は、要するに地力を上げるため。カリ成分をしっかり入れる。堆肥をしっかり入れる事で、地を良くする事で、少しでも放射能を除去できるのでは」とおっしゃった。この春、桑の畑にも田んぼにも野菜畑にも、堆肥を入れた。石灰も効果があると、県の農業推進室や普及所からの指導でもあり桑畑に入れた。

福島県の農家は、「復興のため」と、今ヒマワリを植えている。JAでは200kgのヒマワリの種を注文して、農家に配った。余っているからと後からも来た。後に残る根っ事茎をどこに処分するのか、先が見えない中で出来るのか、という議論もいっぱいある。燃やせばまたセシウムが空気中に飛ぶ。東電で買ってくれるのか。先は見えない。油には移行しないという事なので、バイオ燃料として、金子さんから提案があったSVOの車に使おうとして、今、競輪&オートレースの補助事業RINGRINGプロジェクトからの助成を受けて、油を搾る搾油機とか遠心分離機、中古の脱穀機を入れようと思っている。セシウムをなるべく土から除



染出来る方法を考えていきたいと思っている。ただ、チェルノブイリの気候と日本の温帯モンスーンの気候は全く違うから、土に関してチェルノブイリはあてにならないと思う。東北のやり方、日本のやり方で自分の畑で検証するしかない。なんとか里山の汚染、河川の汚染の実態を調査して、どう対応するか、土づくりをどうするか、里山再生のための復興プロジェクトの立ち上げ準備を進めている。

## 東北の頑張り、東京の責任

飯舘村でともに汗を流してきた仲間がいる。その仲間が悔しい思いを話してくれた。「東北は、貧しかった。東北の農民は、貧しさから解放されるために、頑張ってきた。飯舘村も、米だけではだめだからと、村長をはじめ、野菜と牛と花との複合経営で何とか頑張ってきたところなのに。やっと息子も30歳を過ぎ、後継者もできてのってきた所なのに。どうして」。飯舘村は昔から冷害に苦しんできた。3~4年に1回は冷害だった。気流の関係で、飯舘に落ちやすい。今回津波を受けた岩手県、宮城県、福島県も、冷害に苦しんできた。米だけでは食べていけない。だからこそ養蚕とかたばこ牛が盛んだった。

いわき市の阿武隈山系に、「村の女は眠れない」という詩を書いた草野比佐男さんという人がいた。「出稼ぎに行く時代はやるせない」「出稼ぎから帰ってこい」と訴える。私の親父も出稼ぎをした。みんな出稼ぎをして何とか生計を立ててきた。夏は一生懸命養蚕をやって、牛を飼って、冬場は出稼ぎする。そういう暮らしの中から、やっと脱却してきた。そういう時に、この放射能。

私は戦後の今の東京の高速道路も新幹線もオリンピックも、やはり東北の農民の出稼ぎによって成り立っていると思う。食料も東北が支えている。本場の野菜が東北から皆さんの台所に届く。電気も皆さんのところに供給している。私たちには東京電力の電気は一本も来ていない。労働力も、食料も、電気も、皆さんの台所も、全てを東北の農民によって賄ってきた。ですから私は、少なくとも妊婦さんや若いお母さんは別にして、40代、50代の皆さんには、福島県の米と野菜を買い支える、そういう責任があると私は思っている。でなければこれまでの東北の農民の頑張りはどうなるのか。そうやって支えていただきたいと思っている。

二本松市にある道の駅「ふるさと東和」NPO「ゆうきの里東和 ふるさとづくり協議会」が運営  
集会所には放射線量マップの掲示も





## ●福島市松川町 岩井清さん

### 有機農業で 本物の食べ物を

福島市松川町の「やまろく米出荷協議会」というのは、集荷業者のような形の生産組合で、有機生産者は5名、会員全体で110名ほど。私が本格的に有機に取り組んだのは、アフアス認証センターでJAS認証を取った2000年から。ここの皆さんよりずっと浅い。耕作面積は大豆と野菜で2町4反ほど。有機をやっていると、人間の体は、やはり食べ物が大事なんじゃないかと思う。子どもの病気をみても、食べ物による弊害が非常に大きいとも言われる。そういう思いから有機農業に取り組んでいる。私の連れ合いはいろいろな病院を転々としたのですが、なかなか良くならなかった。定年を境に、食生活を味噌・醤油から有機にした。米も完全な有機米に。ここ10年で歩けなかった人間が、田畑に出てこられる状態にまで回復した。本物の野菜が人間の体を作っている事を実感した。

### 基準値以下のものしか出さない

震災当時、中通りでは10日ほど水道は止まったが、電気は何とか来ていた。ガソリンがなく連日ガソリンスタンドの行列に並んだ。昔の配給時代を思い出させるような生活だった。被害は屋根の瓦が落ちたり、土蔵の壁が落ちたりといった程度。水田も用水路は無事。しかし2653ベクレルという数字が出て、県の農林水産部門から「作付け中止」という通達が入った。さあこれは大変だと。しかし4月12日には「作付け可」という通知がきて、作付けを始めた。ただ右往左往するだけで、何を信用したらいいか、わからない状態。もともと、野菜作り、米作りというのは、人間の都合で作付けを変えるといいものはできない。本気になってやらないとダメ、と肌で感じている。今回の情勢では本当にまともなニュースが入ってこない。テレビは「これで大丈夫」という言い方をするが、本当に大丈夫なのか、全く分からない。自分たちが住んでいる地

域がどういう現状なのかすらわからないで生活している。ようやく自主検査をして、国がだした500ベクレルという数字が出たものは、一切出荷しないようにしよう、という体制を作るための機械の購入手続きをしたところ。

「みなさん消費者のところには基準値以下のものしか出さない」。我々がそういう思いで作ったものが、「はたして買っていただけるのだろうか？」というのが、我々の今の日々の会話。雑草と闘いながら、苦勞しても「お前の米、買ってもらえるのかよ」と言われるのが一番つらい。本当に。都会の消費者に「基準値以下ですよ」と言っても、実際2653という数字が出てしまっているわけで。国は「10%が作物に移行する」と言う。検出値でゼロと出ても、消費者が買ってくれるのかという心配は尽きない。

### 不安が尽きない「嘘をつかない野菜」づくり

今回の原発事故で非常に悔しいのは、ずっと毎年作ってきた土を汚染されたという事。土づくりは、気候も変われば、去年の技術がそのまま使えるという事はない。稲の姿を見ながら、自分なりに判断してやっていくしかない。今はこの有機肥料で大丈夫なのか、心配ばかりが連日、話題になる生活になった。日本人として日本の百姓を守っていくためには「月のリズムに合わせる事」が重要だと、ここ数年感じている。消毒するにしても、新月や満月のリズムを使ってやると、比較的いいと感じる。虫が出るのは満月。種をまくのは新月からだとても非常に発芽がいい。そんな事が分かりはじめて、だんだん面白くなってきた矢先に、どんと全部なくなった。

「嘘をつかない野菜」を作ってきたのに、みんな嘘で塗り固められたような世の中を生きなければならぬのが切ない。今まで勉強した事はなかったが、今、本気になって自分なりに勉強している。自分が作った有機米が、消費者に喜ばれて、また買ってくれるのか、今はその事で頭がいっぱい。明日帰ったら、また田車を押さないといけぬ。草は間違いなく生い茂ってくる。待たなしの作業が待っている。しかし夜、家に帰ってふっと時間ができると、不安でつらくなる。今日こうやって東京に来て皆さんの真剣なまなざしを見て、我々の事を考えてくれている人が大勢いると知って心強く、ありがたいと思った。

## 普及啓発事業イベントスケジュール

【最新情報はこちら <http://yuki-hirogaru.net/>】

今年度も普及啓発事業がはじまりました。今後予定されているもののうち、4つのイベントについてお知らせします。

### ■土と平和の祭典 2011

◆東京・日比谷公園 小音楽堂～にれのき広場

10月16日(日) 10時～16時30分

【主催】種まき大作戦実行委員会

【共催】全国有機農業推進協議会

【公式サイト】<http://www.tanemaki.jp/>

### ■地域にひろがる有機農業 関東集会

◆栃木・ホテルニュー塩原

12月17日(土)～18日(日)

【主催】有機農業関東集会実行委員会

【共催】全国有機農業推進協議会

### ■農こそエナジー in 京都

◆京都・キャンパスプラザ 大講義室

11月5日(土) 13時～17時

【主催】農を変えたい! 関西地域ネットワーク

【共催】全国有機農業推進協議会

### ■ゆうきフェスタ in 島原半島

◆長崎県・雲仙市「富貴屋」ほか

12月3日(日)

【主催】南島原市有機農業推進協議会

【共催】全国有機農業推進協議会

### 脱原発・ふくしま有機ネットのよびかけ

ふくしま有機ネット代表: 菅野 正寿

原発事故による放射性物質の汚染はわたしたちの農業とくらしと健康に測り知れない深刻な影響を及ぼしています。ふくしま有機ネットでは、このふくしまの地域資源循環型農業と人間らしいくらしの再生のため、脱原発社会をよびかけています。(全文はウェブサイトをご覧ください)

#### <募金と支援のお願い>

ふくしま有機ネットでは、放射性物質の土壌検査、農産物の測定器を設置し実態を把握して、その農業技術対策をはかり、循環型農業を取り戻していきたいと考えております。つきましては有機質資材(油かす、魚かすなど)と合わせて募金と支援のお願いをよびかけます。

口座情報: 福島県有機農業ネットワーク事務局 佐藤一夫  
東北労働金庫福島支店 普通 6139109  
電話/Fax: 0243-47-3446 ([yunosato\\_farm@yahoo.co.jp](mailto:yunosato_farm@yahoo.co.jp))  
Blog <http://green.ap.teacup.com/organic-network/>

「福島県の勇気農家の実情を聞く会」では震災支援に取り組む流通団体からの報告もいただきました。限られた紙面ではご紹介できませんでしたが、以下にウェブサイトを紹介させていただきます。(全有協事務局より)

#### ●PAL システム

「食べる」で支え合う」復興応援、「産地・生産者への応援メッセージ」等の呼びかけ

被災者支援カンパ: 4億29万円(2011年10月時点)  
<http://sanchoku.pal-system.co.jp/index.html>

#### ●大地を守る会

「福島と北関東の農家ががんばろうセット」「避難所へ新鮮な季節の野菜を届けるプロジェクト」等のよびかけ

復興支援基金: 1億382万円(2011年10月時点)  
[http://www.daichi.or.jp/info/news/2011/0323\\_2686.html](http://www.daichi.or.jp/info/news/2011/0323_2686.html)

発行人 金子美登 (発行元 特定非営利活動法人 全国有機農業推進協議会)

住所: 〒158-0081 東京都世田谷区新町1-6-7 コートロワール202

電話: 03-5799-6177 FAX: 03-5799-6302

Email: [info@zenyukyo.or.jp](mailto:info@zenyukyo.or.jp)

公式サイト: <http://www.zenyukyo.or.jp>

事業サイト: <http://www.yuki-hirogaru.net>

[入会・継続をお願いします] (入会金不要、年会費1口 個人会員1万円、団体会員5万円、賛助会員3千円より)

口座: ゆうちょ銀行振替口座(支店コード: 019店) 00180-7-687517 (当座)

名義: 特定非営利活動法人 全国有機農業推進協議会

通信欄に「全有協会費(個人・団体)(口数)、お名前、ご連絡先、ご所属等」をお書きください。